

立つ再びふるさとで

君(9)を見ながら、モチノキに語りかけた。  
「お袋が守ってくれた2人の命は、元気に伸び伸びと育っているよ」  
久之浜の集落は6戸の津波に襲われ、41人が命を落とした。篤さんは母親の光子さん(当時67)を失った。火災も起きて焼け野原となる中、実家の位置を示すように庭のモチノキは津波に流されず、ぽつりと立っていた。枝の半分は焼けてなくなっていた。  
津波の直前まで、しづくさんと昂君は光子さんと一  
さん(1)と3年生の長男昇(さん)を見ながら、モチノキに語りかけた。  
「お袋が守ってくれた2人の命は、元気に伸び伸びと育っているよ」  
久之浜の集落は6戸の津波に襲われ、41人が命を落とした。篤さんは母親の光子さん(当時67)を失った。火災も起きて焼け野原となる中、実家の位置を示すように庭のモチノキは津波に流されず、ぽつりと立っていた。枝の半分は焼けてなくなっていた。  
家は祖父の代まで漁師。光子さんが上手に魚をさばく姿に憧れ、篤さんは料理人になった。店を開こうと思つたが、光子さんは「自らもみるのは責任ある仕事。肩が張つてしまふがない」とぼやいていたが、しっかり守つてくれた」  
今も心に引っかかることがある。孫2人を車に乗せた後、なぜ家に戻つたのか。  
6年前の11日は、雪が舞う寒い日だった。「避難所で孫たちにかける毛布を取りにいったのだろうか」。時々考える。

「営業は大変」と反対し、公施設や企業の保養所の厨房に立ってきた。3年前、店を始めようと久之浜に新しく建つ商業施設に出店を申し込んだ。決断する時、相談したのがモチノキだった。海辺に1本だけ立つ木を、母親の光子さんと重ねた。「お袋は開業に反対だったけど、俺は久之浜を活氣づけた

金融機関に融資を済られ、気持ちが揺らぐたび、モチノキと向き合った。背中を押してくれる気がした。来月20日、篤さんの和食店がオープンする。「地魚が自慢の店にしたい。不安でいっぱいだけど、『やつて良かっただろ』と、いつかお袋に報告したい」

願う 震災後に新たに造られた町営墓地で、  
墓参りをする畠中豊さん（中央）。家  
だったが津波で自宅を流された。「6年経って  
難しい。町はトラックしか走っていない」=11  
時27分、福島県浪江町、杉本康弘撮影



実家から植え替えたモチノキの下に立つ新妻篤さん（左端）一家＝11日午前、福島県いわき市、関田航撮影

石川県能登町宇加塚の木造  
2階建て住宅で血を流して  
死亡している女性が見つから  
った。県警によると、女性  
は県立能登高校1年の池下  
未沙さん(16)＝能登町＝  
で、刃物のようなものによ  
る傷が複数あつたという。  
県警は殺人事件とみて捜査  
している。

は10日午後6時半ごろ、「LINEで「迎えに来てほしい」と家族に連絡。家族が待ち合わせ先のバス停に行くと、池下さんはおらず、カバンや携帯電話が残されていた。このため、家族が同日夜に県警に連絡した。

一方、午後7時40分ごろ、に同県穴水町麦ヶ瀬の能越自動車道（国道470号）で長野県内に住む20代の男

子大学生が軽乗用車にはねられ、近くに運転していくとみられる車が止められていた。この車の関係先を県警が調べたところ、事故現場から東に約20キロ離れた山間部にある能登町宇加塚の木造2階建て住宅が浮上。室内を調べた警察官が遺体を見つけた。

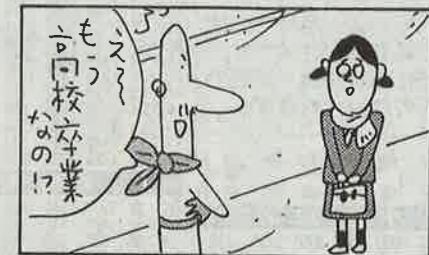
路上にいたという。男子大學生は約16時間後に病院で死亡が確認された。

県警は、死亡した男子大學生が池下さんの死亡の経緯を知っていた可能性があるとみて、調べを進めてい



## 室内に高1女子遺体

石川 事情知る? 男子学生、死亡



新聞広告に込めた思い ACジャパン広告学生賞

大学生や専門学校生らによる公共広告の優秀作を決める「第13回ACジャパン広告学生賞」（朝日新聞社など後援）の表彰式が10日、東京都内であった。今回初めて設けられた「新聞広告部門」では、応募した11校の168作品から、京都造形芸術大学3年の三枝瑞季さん（21）の作品がグランプリに選ばれた。

伺っているという三枝さん。「かわいいからと気軽に飼い、捨てる人が多い」と聞く。最後まで面倒を見る覚悟でいる」と伝えたかった」と話した。

準グランプリは、同大学3年の田中麻央さん(21)の「変わらないこと」。昨年、祖母に認知症の疑いがあると知り、周囲の助けを借りながら認知症の人を支える大切さを訴えた。この2作は7月以降、朝日新聞を含む全国紙の一部地域で掲載される見込み。

このほか、審査員特別賞3作、優秀賞9作を表彰した。（高浜行人）

昨年4月時点の充足率は84%。福島県の21市町村では427人に対して87%、岩手県の9市町村は734人に對して91%だった。

3県の統計が残る2013年度以降、3県の平均は81・88%で推移。新年度は宮城が88%、福島は83%、岩手は93%の見通しだ。

職員不足の背景には、県外の自治体からの応援職員が減っていることがある。新年度に確保できるのは宮城571人、福島105人で、2県で前年の12%にあたる計97人が減る見込み。岩手も「減る見通し」(市町村課)だ。団塊世代の退職や財政難で全国の自治体が職員数を減らすなか、「もういいのではないか」という声も届いている」(村井嘉浩・宮城県知事)という。